

お台場旧防波堤（鳥の島 2 島）における鳥類のモニタリング調査 冬季調査（1 月）報告書

平成 28 年 2 月 お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園内防波堤（通称鳥の島）における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

お台場海浜公園内堤防（通称鳥の島） 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
平成 28 年 1 月 8 日（金）	8 : 00～14 : 00	晴

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡などを必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。調査地点を図 1 に示す。

（1）船上センサス

鳥の島の 2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、鳥の島及び周辺を観察し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。繁殖期には、特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。

（2）ラインセンサス

各島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2 km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。繁殖期には、特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望の卓越した定点を設定し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。繁殖期には、特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

鳥の島の2島を任意に踏査し、目視または鳴き声などで確認した鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。繁殖期には、特にさえずりや餌運びなどの繁殖行動に注意した。



写真1 各調査手法における調査風景



図1 調査地点

5. 調査結果

- 現地調査の結果、夏季に 19 種、秋季に 22 種、冬季に 34 種、合計 10 目 23 科 43 種の鳥類を確認した（表 2）。
- 冬季の確認種の多くは夏季及び秋季同様、水域やその周辺に生息する鳥類であり、16 種を確認した。主な確認種は、カルガモやカンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、イソシギ、ユリカモメ、ハクセキレイなどであった。また、島内には小規模な樹林環境や草地環境が見られ、夏季及び秋季には森林やその周辺に生息する鳥類が少なかったものの、冬季には 13 種を確認した。主な確認種は、シジュウカラやヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、カワラヒワ、ホオジロなどであった。そのほか、猛禽類であるミサゴやオオタカ、ノスリ、都市部に普通に生息するキジバトやハシブトガラス、ムクドリ、スズメ、ドバトも確認した。
- 北側の島でオオタカを確認したほか、2 島において猛禽類の食痕を多数確認したことから、オオタカが鳥の島を頻繁に利用していると考えられる。また、猛禽類の食

痕のうち、調査では確認できなかったハイタカ及びトラフズクの羽根を確認したことから、鳥の島又はお台場海浜公園の樹林地に生息していた可能性が高い。

- 冬季の確認種のうち、カルガモやハシブトガラス、スズメなどの留鳥（ある地域で1年中見られる種）が多かったが、スズガモやカンムリカイツブリ、ユリカモメ、ウグイス、シロハラ、ジョウビタキなどの冬鳥の種数も比較的多かった。
- 夏季及び秋季の確認個体数が最も多かった種はカワウであったが、冬季にはスズメが最も多かった（表3、表4、表5）。スズメの個体数は秋季より増加しており、島内のヨシ等の高茎草地内で採餌する個体を多数確認したことから、冬季はスズメにとって良好な生息環境といえる。
- 巣材運びやディスプレイなどの繁殖活動を行うカワウを複数個体確認した。
- 重要種は合計16種を確認し、夏季にはダイサギやコサギ、イソシギ、コアジサシの4種、秋季にはササゴイやダイサギ、コサギ、イソシギ、ハチクマ、トビ、チョウゲンボウ、イソヒヨドリの8種、冬季にはスズガモやウミアイサ、カンムリカイツブリ、オオバン、イソシギ、ミサゴ、オオタカ、ノスリ、イソヒヨドリの9種を確認した（表2）。冬季に確認した重要種のうち、スズガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、オオバンは鳥の島周辺の水域で確認した。イソシギ及びイソヒヨドリは主に海辺の岩場や消波ブロックで採餌、休息する個体を、オオタカは落葉樹にとまる個体を確認した。特にオオタカは東京都区部においてCR（絶滅危惧IA類）に指定されており、ランクの高い種である。また、ミサゴ及びノスリは上空を通過する個体を確認した。

表 2 (1) 鳥類確認種目録 (1/2)

No.	目名	科名	種名	鳥の島			重要種選定基準			
				夏季 (6 月)	秋季 (9 月)	冬季 (1 月)	①	②	③	④
1	カモ	カモ	カルガモ	○	○	○				
2			スズガモ			○				留
3			ウミアイサ			○				DD
4	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ			○				留
5			ハジロカイツブリ			○				
6	ハト	ハト	キジバト		○	○				
7	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○	○				
8	ペリカン	サギ	ササゴイ		○					CR
9			アオサギ	○	○	○				
10			ダイサギ	○	○					VU
11			コサギ	○	○					VU
12	ツル	クイナ	オオバン			○				VU
13	チドリ	シギ	イソシギ	○	○	○				VU
14		カモメ	ユリカモメ			○				
15			ウミネコ	○	○	○				
16			セグロカモメ			○				
17			オオセグロカモメ	○	○	○				
18			コアジサシ	○				際	VU	EN
19	タカ	ミサゴ	ミサゴ			○			NT	EN
20		タカ	ハチクマ		○				NT	
21			トビ		○					NT
22			オオタカ			○		内	NT	CR
23			ノスリ			○				EN
24	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○					EN

表 2 (2) 鳥類確認種目録 (2/2)

No.	目名	科名	種名	鳥の島			重要種選定基準			
				夏季 (6 月)	秋季 (9 月)	冬季 (1 月)	①	②	③	④
25	スズメ	カラス	ハシブトガラス	○	○	○				
26		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○				
27		ツバメ	ツバメ	○						
28		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○				
29		ウグイス	ウグイス			○				
30		メジロ	メジロ	○		○				
31		ムクドリ	ムクドリ	○	○	○				
32		ヒタキ	シロハラ			○				
33			アカハラ			○				
34			ツグミ			○				
35			ジョウビタキ			○				
36			イソヒヨドリ		○	○				DD
37			キビタキ		○					
38		スズメ	スズメ	○	○	○				
39		セキレイ	ハクセキレイ	○	○	○				
40		アトリ	カワラヒワ	○		○				
41		ホオジロ	ホオジロ			○				
42			アオジ			○				
43	ハト	ハト	(ドバト)	○	○	○				
計	10 目	23 科	43 種	19 種	22 種	34 種	0 種	2 種	4 種	15 種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注2. 重要種選定基準は以下の通りである。

- ① 文化財保護法(昭和 25 年、法律第 214 号)
天:天然記念物 特:特別天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号;平成 23 年改訂)
内:国内希少野生動物 際:国際希少野生動物
- ③ 「第4次レッドリストの公表について」(平成 24 年、環境省)における掲載種
EX:絶滅 EW:野生絶滅 GR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類
NT:準絶滅危惧種 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部解説版)～」
(平成 25 年、東京都)における区部の掲載種
EX:絶滅 EW:野生絶滅 GR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留:留意種

注 3. ()内の種は外来種を示す。

表 3 船上センサス結果

No.	種名	船上センサス									合計
		夏季(6月)			秋季(9月)			冬季(1月)			
		北側	南側	小計	北側	南側	小計	北側	南側	小計	
1	カルガモ	1	3	4	0	0	0	6	0	6	10
2	スズガモ	0	0	0	0	0	0	0	130	130	130
3	ウミアイサ	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
4	カンムリカイツブリ	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2
5	キジバト	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
6	カワウ	160	76	236	145	177	322	49	22	71	629
7	アオサギ	19	15	34	7	5	12	0	0	0	46
8	ダイサギ	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
9	イソシギ	1	0	1	1	1	2	1	3	4	7
10	ウミネコ	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
11	セグロカモメ	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2
12	オオセグロカモメ	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2
13	コアジサシ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
14	オオタカ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
15	ハシブトガラス	2	2	4	3	2	5	2	0	2	11
16	シジュウカラ	1	0	1	2	0	2	0	0	0	3
17	ヒヨドリ	0	1	1	0	0	0	5	4	9	10
18	スズメ	5	1	6	2	0	2	13	301	314	322
19	ハクセキレイ	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3
計	19 種	194	98	292	162	186	348	81	465	546	1,186
		9 種	6 種	10 種	8 種	5 種	8 種	11 種	9 種	13 種	19 種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

表 4 (1) ラインセンサス結果 (1/2)

No.	種名	ラインセンサス							
		L1				L2			
		夏季(6月)		秋季(9月)		夏季(6月)		秋季(9月)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	2	1%	0	0%	2	6%	0	0%
2	キジバト	0	0%	0	0%	0	0%	2	7%
3	カワウ	113	82%	0	0%	25	76%	8	30%
4	アオサギ	5	4%	0	0%	0	0%	1	4%
5	イソシギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%
6	ハシブトガラス	2	1%	0	0%	0	0%	4	15%
7	シジュウカラ	0	0%	2	4%	1	3%	0	0%
8	ヒヨドリ	0	0%	2	4%	0	0%	0	0%
9	ムクドリ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
10	キビタキ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
11	スズメ	16	12%	49	89%	5	15%	10	37%
12	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%
合計		138	100%	55	100%	33	100%	27	100%
		5 種		5 種		4 種		7 種	

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

表 4 (2) ラインセンサス結果 (2/2)

No.	種名	ラインセンサス			
		L1		L2	
		冬季(1月)			
		個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジバト	1	0.2%	0	0.0%
2	カワウ	34	6.6%	23	9.2%
3	イソシギ	0	0.0%	2	0.8%
4	セグロカモメ	1	0.2%	0	0.0%
5	ミサゴ	1	0.2%	0	0.0%
6	ハシブトガラス	2	0.4%	1	0.4%
7	ヒヨドリ	10	1.9%	6	2.4%
8	ウグイス	0	0.0%	1	0.4%
9	メジロ	0	0.0%	2	0.8%
10	ツグミ	1	0.2%	2	0.8%
11	ジョウビタキ	1	0.2%	0	0.0%
12	イソヒヨドリ	0	0.0%	1	0.4%
13	スズメ	460	89.3%	200	80.0%
14	ハクセキレイ	0	0.0%	2	0.8%
15	カワラヒワ	0	0.0%	7	2.8%
16	ホオジロ	1	0.2%	0	0.0%
17	アオジ	3	0.6%	3	1.2%
合計		515	100.0%	250	100.0%
		11 種		12 種	

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

表 5 (1) 定点観察調査結果 (1/2)

No.	種名	定点観察調査							
		P1		P2		P3		P4	
		夏季 (6 月)	秋季 (9 月)	夏季 (6 月)	秋季 (9 月)	夏季 (6 月)	秋季 (9 月)	夏季 (6 月)	秋季 (9 月)
1	カルガモ	1	0	2	0	0	2	1	0
2	カワウ	26	1	25	47	40	0	71	26
3	アオサギ	1	0	0	0	1	0	3	0
4	ダイサギ	0	0	1	0	0	0	2	0
5	コサギ	0	0	0	0	0	0	2	0
6	イソシギ	0	0	0	1	0	0	0	2
7	ウミネコ	0	0	1	0	1	0	1	0
8	オオセグロカモメ	0	0	0	1	2	0	0	0
9	コアジサシ	2	0	0	0	0	0	1	0
10	ハシブトガラス	0	3	2	1	0	3	0	1
11	シジュウカラ	0	2	1	2	1	2	0	0
12	ツバメ	0	0	0	0	3	0	3	0
13	ヒヨドリ	0	0	0	4	0	2	0	0
14	メジロ	0	0	0	0	0	0	1	0
15	ムクドリ	0	0	0	1	0	0	0	0
16	イソヒヨドリ	0	0	0	2	0	0	0	0
17	スズメ	6	22	6	0	8	2	3	3
18	ハクセキレイ	0	0	0	0	0	0	1	0
19	カワラヒワ	2	0	1	0	0	0	0	0
合計		38	28	39	59	56	11	89	32
		6 種	4 種	8 種	8 種	7 種	5 種	11 種	4 種
		8 種		13 種		10 種		13 種	

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

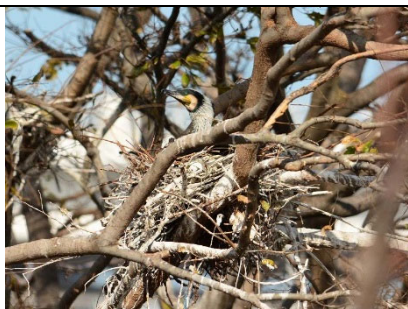
注2. 表内の数値は個体数を示す。

表 5 (2) 定点観察調査結果 (2/2)

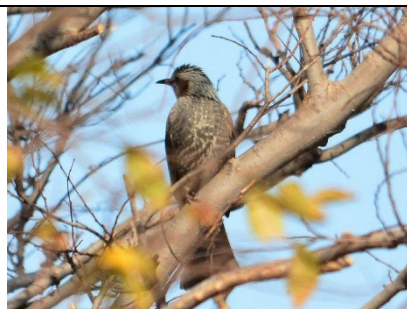
No.	種名	定点観察調査			
		冬季 (1 月)			
		P1	P2	P3	P4
1	スズガモ	12	1	0	0
2	カンムリカイツブリ	0	0	0	2
3	キジバト	1	1	4	0
4	カワウ	16	3	4	23
5	イソシギ	0	1	1	0
6	ユリカモメ	1	1	1	1
7	セグロカモメ	1	1	1	0
8	オオセグロカモメ	0	0	0	1
9	ハシブトガラス	2	1	1	0
10	ヒヨドリ	9	11	9	10
11	ウグイス	1	0	0	0
12	メジロ	0	2	2	2
13	ムクドリ	0	2	0	0
14	ツグミ	1	0	0	2
15	ジョウビタキ	2	0	0	0
16	スズメ	200	187	110	0
17	ハクセキレイ	0	1	2	1
18	カワラヒワ	0	2	1	2
19	ホオジロ	3	0	0	0
20	アオジ	0	3	0	0
合計		249	217	136	44
		12 種	14 種	11 種	9 種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

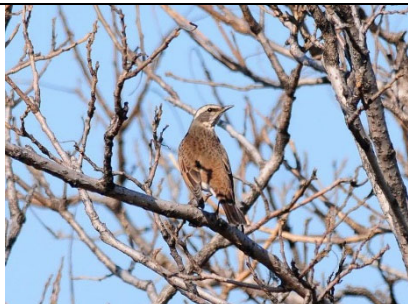
注2. 表内の数値は個体数を示す。



カワウ



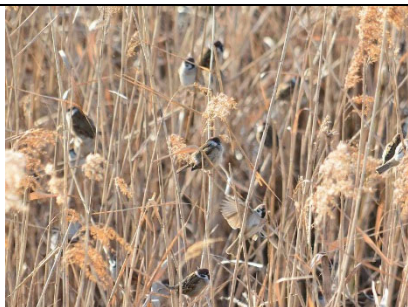
ヒヨドリ



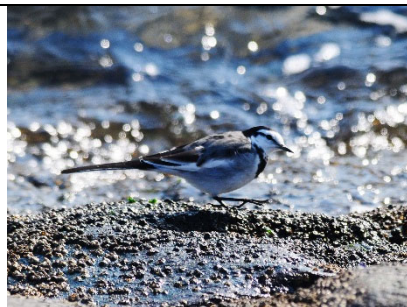
ツグミ



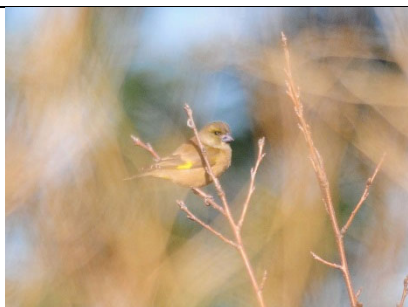
ジョウビタキ



スズメ



ハクセキレイ



カワラヒワ



アオジ



猛禽類食痕(ハイタカ)



猛禽類食痕(トラフズク)

写真2 鳥の島で確認した主な鳥類



カンムリカイツブリ



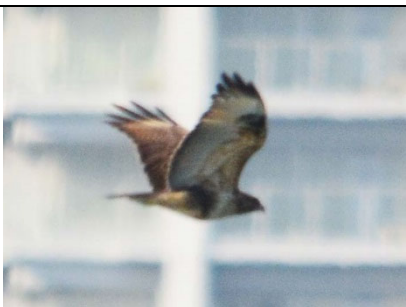
オオバン



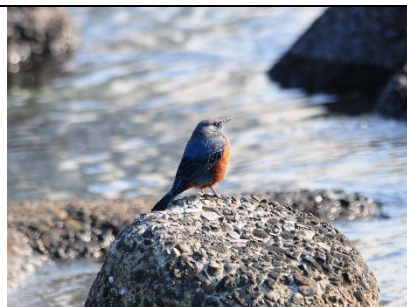
ミサゴ



オオタカ



ノスリ



イソヒヨドリ

写真3 鳥の島で確認した鳥類（重要種）